

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

A 重油焚きボイラーから
木質バイオマス専焼ボイラーへの更新

排出削減事業者名：三重中央木材加工協同組合

排出削減事業共同実施者名：環境経済株式会社

その他関連事業者名：

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	三重中央木材加工協同組合
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	勢和工場
住所	三重県 多気郡 多気町 色太字石神 974
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	環境経済株式会社
その他関連事業者	
関連事業者名	

2 排出削減活動の概要

2.1 排出削減事業の名称

A 重油焚きボイラーから木質バイオマス専焼ボイラーへの更新

2.2 排出削減事業の目的

木質バイオマス専焼ボイラーを主たる蒸気供給ボイラーとし、省エネルギーを行うとともに、CO₂排出量を削減する。

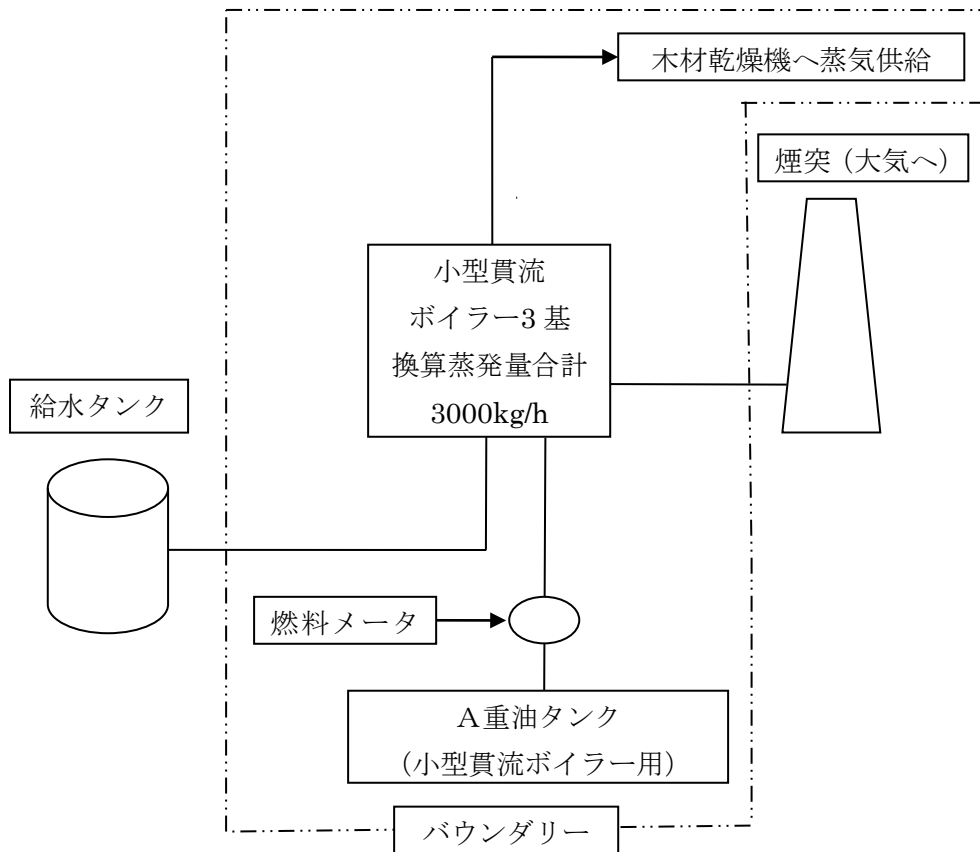
バイオマス専焼ボイラー設置前に使用していたA重油焚きボイラーはバックアップ用とする。

2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

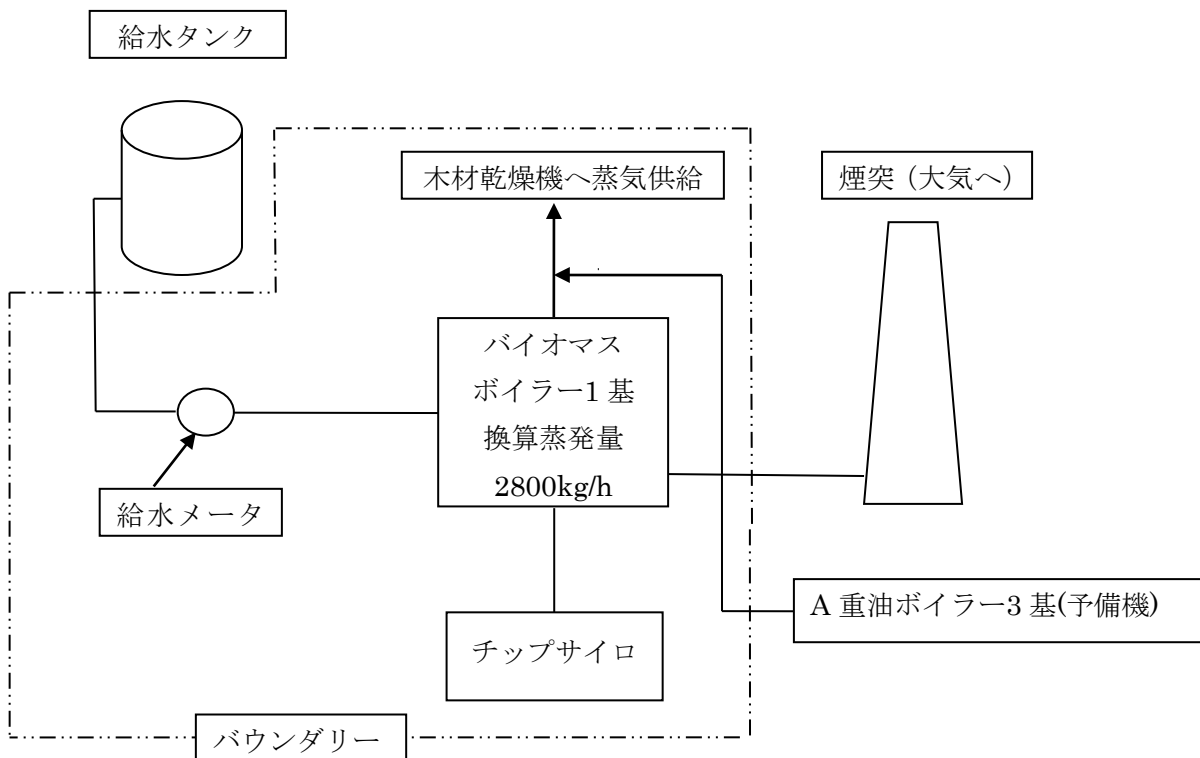
バイオマスを燃料（主として木質チップ燃料）とする木質バイオマス専焼ボイラーを設置する。

このボイラーを主体として蒸気供給を実施することでCO₂の排出を削減する。

（排出削減事業実施前の設備概要）



(排出削減事業実施後の設備概要)



2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか はい

	<input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

第1回実績確認において承認済

1) プロジェクト開始日

計画時には2010年6月1日を開始日に予定していたが、設備完工の遅れにより2010年7月1日に変更した。

2) ブロー量の測定方法

木質バイオマス専焼ボイラー新設時に設置された流量計（日東精工 B-FF50BFB-LS2-20）で実測に変更した。

排出削減事業担当者

3 排出削減活動期間

3.1 プロジェクト開始日

2010年7月1日

3.2 モニタリング対象期間

（本報告における実績報告期間）

2013年4月1日 ～ 2018年6月30日

4 温室効果ガス排出削減量

4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

4.2 活動量

活動量の使用はしていない。

4.2.1 活動量・原単位

4.2.2 活動量の採用根拠

4.3 事業の範囲（バウンダリー）

本事業のバウンダリーの概要を4頁の図に示す。

5 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更 ある場合、) 変更理由
HE_{PJ}	事業実施後ボイラーの生成熱	GJ/年	平成 25 年度 9,543 平成 26 年度 9,690 平成 27 年度 9,032 平成 28 年度 10,456 平成 29 年度 10,852 平成 30 年度 3,155	計測データ (給水量、給水温度、蒸気圧力、ブロー量) をもとに算定 但し蒸気流量 = 給水量 - ブロー量で算定	
ε_{BL}	ベースラインのボイラー効率	%	81.5	カタログ値を利用	
$CEF_{fuel, BL}$	A 重油の単位発熱量あたりの二酸化炭素排出係数	t-CO ₂ /GJ	0.0708	デフォルト値を利用	

6 排出削減量の計算

6.1 事業実施後排出量

木質バイオマス燃料について排出量はゼロとみなせる。

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
<i>EM_{PJ}</i>			0 t-CO2

6.2 ベースライン排出量

活動量	排出係数	CO2 排出量
平成 25 年度	81.5% 9,543GJ	0.0708 t -CO2/GJ 829.0 t-CO2
平成 26 年度	9,690GJ	841.8 t-CO2
平成 27 年度	9,032GJ	784.6 t-CO2
平成 28 年度	10,456GJ	908.3 t-CO2
平成 29 年度	10,852GJ	942.7 t-CO2
平成 30 年度	3,155GJ	274.1 t-CO2
<i>EM_{BL}</i>		4,580.5 t-CO2

6.3 リークージ排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
<i>LE</i>			0 t-CO2

補機類のCO2 排出量は排出削減量の5%に満たないためリークージ排出量は0とした。

6.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	<i>EM_{BL}</i>	4,580.5 t-CO2
事業実施後排出量 (7.1)	<i>EM_{PJ}</i>	0 t-CO2
リークージ排出量 (7.3)	<i>LE</i>	0 t-CO2
温室効果ガス排出削減量	<i>ER</i>	4,580 t-CO2

7 省エネルギー量

原油換算 (kl)		
ベースライン ①	実績 ②	ベースライン －実績 ①－②

熱量換算及び原油換算において用いる換算係数については、エネルギー使用の合理化に関する法律（省エネ法）施行規則第4条に規定する換算係数を使用すること。

9 再生可能エネルギー利用量

	モニタリング期間 (2013 年 4 月 1 日 ~ 2018 年 6 月 30 日)			
		エネルギー使用量	熱量換算 (GJ)	原油換算(kl)
	単位	(実績)	(実績)	(実績)
バイオマス熱利用量	GJ	52,728	52,728	1,360.4